

北区地域保健福祉計画（素案）に関する
パブリックコメント実施結果と区の考え方について

- 1 意見提出期間 平成29年12月1日（金）～平成30年1月5日（金）
- 2 意見提出者数 2名（北区ホームページ1名、FAX1名）
- 3 意見総数 15件
- 4 主な意見

No.	意見の概要	件数	区の考え方
1	「北区高齢者いきいきサポーター制度」は、現在の受け入れ施設が高齢者・障害者施設に偏っている。「やってみよう！ボランティア」等と連動するなど、受入団体の門戸を拡充すべきである。	1	北区高齢者いきいきサポーター制度は平成26年度末から実施しており、当初受入機関は高齢者施設のみでしたが、徐々にその数や種類を拡げているところです。 現在は、高齢者施設だけではなく、健康増進センターや育ち愛ほっと館にも受入機関として登録していただき、子どもや若い年代の方々との交流を通じた活動が可能となっています。受入機関となる施設の安全管理対策やボランティア活動への需要を考慮しつつ、今後とも受入機関の拡充を図ります。
2	「移動支援事業の実施・充実」は、公共施設のバリアフリー化や公共交通ネットワークの構築と一体で検討し、公共交通の利用を含めた「くらしの足の確保」の一環として取り組んでいただきたい。	1	移動支援事業の利用者数は、年々増加傾向にあり、ニーズが高まっていると考えられます。屋外での移動が困難な障害者及び障害児が、地域で自立した生活を送れるようにし、安心して社会に参加することで、生活の質を充実、向上させるという移動支援事業の目的が達成できるように取り組んでまいります。
3	NPO・ボランティア団体や町会等の地域活動におけるネットでの情報共有は大変重要で、災害時の情報発信にも強みを発揮することから、「みにきたWeb」の普及・充実化や、FacebookなどのSNSでの情報提供を積極的に行えるような支援活動を事業化してほしい。	1	情報の提供では、インターネット等による情報発信は大変重要であると認識しております。区民が必要とする情報については、日々進歩するICT技術等を駆使して対応していきます。

No.	意見の概要	件数	区の考え方
4	「夏・体験ボランティア」について、夏休み中も登校日等の学校行事があるため、区内中学・高校の情報を北区 NPO・ボランティアぷらざでなるべき事前につかみ、受け入れ団体に事前に情報提供していただきたい。	1	情報の提供では、インターネット等による情報発信は大変重要であると認識しております。区民が必要とする情報については、日々進歩する ICT 技術等を駆使して対応していきます。
5	「北区協働推進基金」は、ふるさと納税で協働推進基金への使途限定型寄付を募るなどし、支援の継続や支援額の増加に向け努力していただきたい。	1	基金は限りある原資であることを認識し、より効果的な資金の確保、事業の継続について検討してまいります。
6	「北区協働推進基金」及び「地域づくり応援団事業」関わる事務は、現在地域振興課がすべて行っているが、本来 NPO・ボランティア団体への支援は北区 NPO・ボランティアぷらざの役割であると考えます。相談・新生・調整等の NPO・ボランティア団体窓口事務は北区 NPO・ボランティアぷらざにその役割を移行していくことが望ましい。	1	日頃より NPO 団体やボランティア団体との関わりを持っている、北区 NPO・ボランティアぷらざの利点を活かし、今まで以上に、機能の充実を図っていきます。
7	「NPO・行政連絡会（環境分野）」、いわゆる環境展について、日程が小学校、ボランティア団体ともに予定の多い秋の週末に開催されているため、見直しをお願いしたい。	1	講座やイベント等、事業の実施時期については、区民の参加しやすさなどを十分に配慮し、もっとも効果的な時期に実施していきます。
8	「連続講座」はまだ魅力が不足している。ワークショップ、シンポジウム、地域の祭りに合わせたイベント、商店街との協働イベント、NPO 同士の共同事業など、他区の事例も参考にして魅力ある講座が開催されることを期待したい。	1	講座等の企画においては、他区、他組織が実施している事例を参考として、より魅力的な内容としていきます。
9	「やってみよう！ボランティア」は、「夏！体験ボランティア」と違い、実績報告書が公開されていないため、効果が不明である。情報提供を「みにきた Web」などネットと連動させるようにしていただきたい。	1	情報の提供では、インターネット等による情報発信は大変重要であると認識しております。区民が必要とする情報については、日々進歩する ICT 技術等を駆使して対応していきます。

No.	意見の概要	件数	区の考え方
10	「地域のきずなづくり推進プロジェクト」での地域円卓会議は、参加者が固定し高齢化が進まないよう、町会未加入の地域住民やNPO・ボランティア団体も加わる方向で進めていただきたい。	1	地域円卓会議は若手役員等にも出席を依頼する等、出席者が固定しないように、各地域において工夫をしています。 町会未加入の方の出席は、会議本来の目的から出来かねますが、プロジェクトの他事業の機会を通じ、声をお聞きしています。 NPO・ボランティア団体の出席は、実現にむけ、地域と協議を継続していきます。
11	「地域のきずなづくり推進プロジェクト」での地域円卓会議は別の枠組みとして、平時からよそ者をつながっておくことが、災害時の危機管理において重要と考える。よそ者の支援が地域住民を元気づけ、地域のきずなを一層深めていることが多い。	1	地域円卓会議は地域活動団体の活動力強化、及び連携を図ることでの地域力強化を目的としています。 災害時の準備は地域課題の最たるものであり、地域円卓会議では今後、地域課題の解決について話し合うことを想定しています。 地域円卓会議を契機として他地域の方とのつながりについても、情報交換を検討してまいります。
12	就労継続支援におけるA型の指定基準の見直しにより、収益を上げていくことが求められている。賃金として支払う額も最低賃金であり、B型とは違う優先調達法の受注など考慮していただきたい。 ・一般企業や区役所での会議でのお弁当の受注の紹介（紹介ルーツ等） ・仕入れ先の紹介（農家などと福祉施設との受託仕組み作りなど）	1	区では、就労継続支援A型事業所について、小学校等への給食提供の優先調達等によって、事業収入拡大のための支援を行っています。今後についても、それぞれの事業所の特性をふまえ、事業収入確保に向けた支援に努めてまいります。

No.	意見の概要	件数	区の考え方
13	「北区防災時ボランティア本部（仮称）の設置」については、現在、災害ボランティアセンターの設置・運営マニュアルはあるが、設置・運営の訓練や被災地での体験については他区に後れを取っている。関係機関との連絡調整や役割分担は、訓練を繰り返して体験しながら整理することが必要である。	1	発災時には、災害ボランティアセンターの迅速な立ち上げ、的確な運営が求められています。そのためには関係者等によるマニュアルに基づく訓練の実施やマニュアルの見直しは不可欠と認識しています。運営訓練については、他自治体の事例を参考にするとともに、各団体と相互に連携し、これまでの被災地での運営支援の活動実績を踏まえて、検討を進めてまいります。
14	「鉄道駅エレベータ等整備事業」について、特に京浜東北線各駅へのホームドアは、慢性的な列車遅延防止対策として、整備の優先順位を上げていただきたい。	1	JR 東日本㈱からは京浜東北線への駅ホームの更なる安全性向上に向け、整備時期の前倒し等により対策を進めていくと聞いております。いただきましたご意見については、JR 東日本㈱へお伝えさせていただきます。
15	「鉄道駅エレベータ等整備事業」について、可動式ホーム柵（標準的なホームドア）の設置が技術的に困難又は時間を要する場合は、昇降式ホーム柵、センサー付き固定式ホーム柵、柵の設置位置変更等、適切な形式を採用していただきたい。	1	